

# ロボカップ2007 アトランタ大会レポート

松岡由希子、五十嵐広希(日本 SGI 株式会社)、荒井みちる

ロボカップ11回目の世界大会は、7月1日～10日まで、米国アトランタのジョージア工科大学にて開催された。今年の大会には、39の国と地域から321チーム、1600人以上が参加。会場のジョージア工科大学キャンパス内の4ヶ所に分かれて、それぞれシミュレーション(サッカー、レスキュー)、4足ロボットリーグ、サッカーリーグ、ジュニア(レスキュー、ダンスチャレンジ)の競技が行われた。各会場を結ぶシャトルバスが回っているものの、2km以上も離れた会場間の移動は大変。リーグ間の交流が乏しかったのが惜まれる一方、2/3の参加者が大学の寮に宿泊、全体的に「合宿」の雰囲気の大変だった。

## ヒューマノイドリーグ

「Team Osaka」(ヴイストン(株)・大阪大学他)がベストヒューマノイドで4連覇を達成。しかし、今回は苦戦だった。60cm以下のヒューマノイドが参戦するKidサイズの2対2の決勝で、「Team Osaka」はフライブルグ大学(ドイツ)の「NimbRo」に8対6で敗退。またTeenサイズクラス出場の「Team Osaka」も、

PK戦で同じく「NimbRo Teen Size」に敗れている。テクニカルチャレンジでの高得点と、チームリーダーによる最終投票で、辛くも首位の座をキープした形だ。

といっても、「Team Osaka」の筐体のハードとしての完成度は他チームを凌ぎ、今大会のメインスポンサーであったドイツの工業用ロボット専門メーカー KUKA から、イノベーション特別賞も受賞した。

日本チームでは、「CIT Brains & Hajime」

(千葉工業大学・はじめロボット研究所)もKidサイズのテクニカルチャレンジで2位と健闘。今大会では、参加チーム数も増え、各チームとも歩行・起き上がりは当たり前。Teenサイズに参加する大きなロボットも増えて、いよいよロボカップの2足歩行時代到来?!を予感させた。



ヒューマノイド全員集合



ヒューマノイドKidサイズ2on2決勝  
「Team Osaka対NimbRo」



「CIT Brains & Hajime」Teenサイズチームのテクニカルチャレンジ

## 小型リーグ

古参チームの参加が減った今大会の小型リーグ。そうはいっても決勝は、タイの「Plasma-Z」(チュラロンコーン大学)が、前年覇者の「CMDragons'07」(カーネギーメロン大学・アメリカ)と互角の戦いを繰り広げ、大いに盛り上がった。前半は5-5、後半に入り「CMDragons'07」が相手のディフェンスを交わして追加点をあげたものの、すぐに猛攻撃で6-6の同点に追っくシーソーゲーム。勝敗はPK戦にもつれ

込み、辛くも「CMDragons'07」が昨年の覇者の面子を保つことができた。

日本チームでは、「RoboDragons」(愛知県立大学)が「ZJUNlict」(浙工大学・中国)を下し3位入賞、またテクニカルチャレンジのシューティングとディフェンスでも3位入賞を果たした。チームメンバーである大竹さんは、シンポジウムでBest Student Paper Awardを受賞。試合の実績だけでなく、その背後を支える研究も評価されたことは喜ばしい。



小型リーグ。黄色いシャツがPlasma-Zチーム、黒いシャツがCMDragons'07